

論文集刊行にあたって

都市政策研究センター代表・専修大学経済学部教授 平尾光司

都市政策研究センターは文部科学省・「私立大学研究高度化助成事業—イノベーション・クラスター形成に向けた川崎都市政策の提言」の研究拠点として2004年に発足して、4年目を終了した。本論文集はセンターの研究者による2007年度の研究成果を収録したものである。

都市政策研究センターの活動はテーマに沿った調査・研究の実施を基本として、その上に次世代研究者の養成、研究成果の社会への還元・発信のための公開講座、公開シンポジウムおよび研究者交流のための研究会の開催など多様な分野が要請されている。これらの活動全体については、別途刊行する『都市政策研究センター年報』で報告されており、ご参照いただきたい。この多様な活動において中核となるのはセンター所属および外部の協力研究者による研究活動である。

センターを構成する4つの研究ユニットすなわち 都市経済政策ユニット、都市産業ユニット、都市基盤ユニット、都市比較ユニットでは2007年度も研究活動が活発に展開された。本論文集はそれぞれのユニットの研究成果を収録したものである。

なお、2007年度は研究プロジェクト期間の中間点が過ぎて最終年度の報告書の作成を展望するために論文集に加えて、『川崎都市白書—未来創造都市・川崎』（2007年7月刊行）、『川崎の産業』（2008年3月刊行）が成果として発表された。後者は川崎市からの委託事業であり、多くの市民に読んでいただけるように報告書の体裁をとって編集されている。したがって、今年度の論文集は実質的には3冊となった。都市政策研究センターの研究成果の発表が多様化して、研究者だけではなく行政、企業経営者、市民など広い層に読んでいただけるメディアが多様化したことを強調させていただきたい。

2008年度に都市政策研究センターはプロジェクトの最終年度を迎えることとなっている。川崎市のイノベーション都市、創造的未來都市への発展のための最終提言に向けて研究員一同の努力を傾注していく所存であり、本論文集についての忌憚のないご意見を賜れば幸甚である。

最後に本年も我々の研究活動に多大なご支援をいただいた川崎市、川崎市産業振興財団、川崎商工会議所、(株)KSP、はじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。